

(様式例)

令和5年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立嶺町小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

・「思考・判断・表現」は、区や全国の平均正答率と比べて高い。習熟度に合わせて課題解決型の授業を展開し、探究する力が付いた。

(2) 課題

・「知識・技能」のポイントが区や全国とほぼ同じである。昨年度に引き続き今年度も、知識・技能をしっかりと定着させることが必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 正答率 (経年比較)

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	校内正答率は区平均正答率と同じで、目標値、全国平均正答率をやや上回っている。 (第4学年時)		
第5学年	校内正答率は、目標値、区平均正答率、全国平均正答率をやや上回っている。 (第5学年時)	校内正答率は、目標値、区平均正答率、全国平均正答率をやや上回っている。 (第4学年時)	
第6学年	校内正答率は、目標値、区平均正答率、全国平均正答率をやや上回っている。 (第6学年時)	校内正答率は、目標値、区平均正答率をやや上回っている。全国平均率をやや下回っている。 (第5学年時)	校内正答率は目標値、全国平均正答率より上回っている。 (第4学年時)

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<4年生> ・校内平均正答率は、区平均正答率をやや下回り、目標値、全国平均正答率をやや上回っている。	<4年生> ・校内正答率は、区平均正答率をやや上回り、目標値、全国平均正答率を上回っている。	<4年生> ・校内正答率は、区平均正答率をやや上回り、目標値、全国平均正答率を上回っている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<5年生> ・校内正答率は、目標値、区平均正答率、全国平均正答率をやや上回っている。	<5年生> ・校内平均正答率は、目標値を大きく上回り、全国平均正答率を上回り、区平均正答率をやや上回っている。	<5年生> ・校内正答率は、目標値、区平均正答率、全国平均正答率をやや上回っている。

<6年生> ・校内正答率は、区平均正答率をやや下回り、目標値、全国平均正答率をやや上回っている。	<6年生> ・校内正答率は、区平均正答率をやや上回り、目標値、全国平均正答率を上回っている。	<6年生> ・校内正答率は、区平均正答率をやや上回り、目標値、全国平均正答率を上回っている。
---	---	---

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・確実に知識・技能を身に付けさせるため、具体物の操作を取り入れる。 ・計算の基礎であるたし算やひき算、九九の確実な定着のため、児童の実態を把握し個に応じた課題を示せるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決の時間を十分に確保し、自分の考えを書いたり話したりする機会を設定する。また、友達の考えを説明するなど、協働的な学びへの基礎を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の場面設定を日常に即したものにし、自分ごととして課題を捉えられるように工夫する。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算の技能がしっかりと定着するよう、朝学習や算数の学習時間に繰り返し練習問題に取り組む時間を設定する。練習問題は算数部と学力向上委員会で作成する。 ・測定の領域においては、実物や具体物を使った体験的な学びを行い、知識・技能の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算単元においては、計算技能の理解だけでなく、自分の考えや友達の考えに触れる、協働的な学びの機会を増やしていく。ミニホワイトボードを活用し、表現するだけでなく説明する時間を十分に取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を日常生活のどの場面で生かすことができるかに、気付くことができるような学習展開の工夫をする。 ・ICTのドリルやコンテンツを活用し、児童が学習に興味をもつことができるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の知識・技能の習熟を確かめる。適応問題として繰り返し取り組む際には、個に応じた課題を設定する力、自分で課題を選ぶ事を通して学びを調整する力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立的・協働的な問題解決の流れを授業の中で取り入れ、筋道を立てて論理的に考える力を身に付けさせる。また、ICTを活用し、より効率的に友達の考えに触れられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的に表現・処理したことを振り返り、生活場面どのように生かすことができるか考えることにより、興味や関心の幅を広げる。